

日刊 動労千葉

86. 10. 3
No. 2369

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二二七二〇七

分割・民営化攻撃の最激戦地 北海道で2弾=札幌 大成功 (8/28)

第33弾
全国上映

八月二八日、札幌市・大谷会館ホールにおいて「俺たちは鉄路に生きる」札幌上映会が開催され、函館に続き、道内第二弾として、国鉄労働者を先頭に自治労・教組・全通・民間・闘う「障害者」・学生・市民、合わせて一五〇名の結集で大成功をおさめた。

二人に一人の首切り―北海道
職場訪問で熱い交流

上映会に向けて動労千葉の組合員と国鉄職場を中心に多くの労組・個人訪問を行い、参加を呼びかけてきた。動労・真国労、当局の「人活」攻撃の嵐のなかで不屈に闘う国労組合員との間で、いくつもの感動的な出会いと熱い交流があった。そして上映会は、上映実行委の仲間があいさつのもと、スクリーンに映しだされる闘いの現場へと引きこまれていった。

終了後、興奮さめやらぬ中、動労千葉重見特別執行委員があいさつにたち、自らも第一波ストで不当解雇されながら不屈に闘い続ける報告と決意が明らかにされた。

このあと場内カンパの呼びかけに五万をこえるカンパが集まった。

二人に一人の首切り、地交線の切り捨て等、分割・民営化攻撃の最も激しい地で函館・札幌上映会の成功をかちとつた意義は大きい。

※北海道での1弾=函館上映会
は7月31日、90名の参加を得て
成功をかちとつた。(日刊カミニ五号参照)

（寄稿）
札幌上映委
員会



福島上映会 第36弾 全国上映

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！

八月三十一日福島市・協働会館で「俺たちは鉄路に生きる」上映会が開催され、国鉄労働者をはじめ全通、教労など多くの労組員、民間労働者、学生、市民、一五八名が参加し大きな成功をかちとつた。

この映画には、誇り高く、熱い心をもつ労働者としての最高の姿が映し出されている。まさに「労働者の美しい姿がここにある」。

緊迫感をもって、眼をくぎづけにしてスクリーンに見入っていた参加者は、上映が終わった時、この感動的な闘いの記録に心からの大きな拍手と喚声で応えた。

「第三波ストも辞さず」と、
動労千葉が挨拶

この映画とともに人々に感動を与えたのは千葉の地から会場に駆けつけた動労千葉青年部・永島氏の力強い発言だった。氏は、「本日、千葉では動労千葉定期大会が開催されている。おそらく第三波ストを辞さず決戦に突入する方針をうちたてるであろう。みなさんもぜひ動労千葉の闘いを応援してほしい」と訴え満場の喝采を浴びた。

この言葉を待っていた！「第三波ス

トに起つ！」映画を「体験」した参加者はこの言葉がどれほどの重い意味をもつものか、いまや切実に理解できる。動労千葉は再びみたびストに起とうとしている。この闘いを絶対に見殺しにしてはならない。国鉄労働者は、全ての労働者は、これに続かなくてはならない。

つづいて国鉄労働者によって訴えられたカンパアピールに込め、五万五千円のカンパが寄せられ司会の根本氏から動労千葉・永島氏に手渡された。

国労の仲間が特別アピール

闘う国鉄労働者を代表して特別アピールにたつた国労の仲間は、「会場にいる労働者、特に国鉄労働者に訴えたい。今や何も言うことはない。ただ一点ストライキに起つこと、職場にストライキを準備すること。このことに人生をかけて決起しようではないか！絶対に許せないのは動労松崎の国労破壊攻撃だ。動労松崎を打倒し、国労労働者の決起を実現する」と声高らかに訴えた。

会場が最高潮に盛上がる中、教育労働者・伊東氏が「国鉄分割・民営化粉碎・

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

八月三十一日福島市・協働会館で「俺たちは鉄路に生きる」上映会が開催され、国鉄労働者をはじめ全通、教労など多くの労組員、民間労働者、学生、市民、一五八名が参加し大きな成功をかちとつた。

この映画の紹介と動労千葉への支援が訴えられたあと、直ちに上映に入った。映画は、いわれなき「国鉄労働者国賊論」キャンペーンの下で、歯を食いしばって列車を運転し続けてきた労働者がついに耐えがたい怒りを爆発させてストライキになだれこんでゆく過程を克明に描いている。あまりにも理不尽な分割・民営化攻撃の下で苦しみ悩みながら、「闘うし

この映画とともに人々に感動を与えたのは千葉の地から会場に駆けつけた動労千葉青年部・永島氏の力強い発言だった。氏は、「本日、千葉では動労千葉定期大会が開催されている。おそらく第三波ストを辞さず決戦に突入する方針をうちたてるであろう。みなさんもぜひ動労千葉の闘いを応援してほしい」と訴え満場の喝采を浴びた。

この言葉を待っていた！「第三波ス

トに起つ！」映画を「体験」した参加者はこの言葉がどれほどの重い意味をもつものか、いまや切実に理解できる。動労千葉は再びみたびストに起とうとしている。この闘いを絶対に見殺しにしてはならない。国鉄労働者は、全ての労働者は、これに続かなくてはならない。

つづいて国鉄労働者によって訴えられたカンパアピールに込め、五万五千円のカンパが寄せられ司会の根本氏から動労千葉・永島氏に手渡された。

国労の仲間が特別アピール

闘う国鉄労働者を代表して特別アピールにたつた国労の仲間は、「会場にいる労働者、特に国鉄労働者に訴えたい。今や何も言うことはない。ただ一点ストライキに起つこと、職場にストライキを準備すること。このことに人生をかけて決起しようではないか！絶対に許せないのは動労松崎の国労破壊攻撃だ。動労松崎を打倒し、国労労働者の決起を実現する」と声高らかに訴えた。

会場が最高潮に盛上がる中、教育労働者・伊東氏が「国鉄分割・民営化粉碎・

(裏面に続く)

動労松崎粉砕・中曽根打倒』にむけて団結ガンバローを三唱し、熱氣溢れた三時間を終えた。

終了後、アンケートに「最高だった。分割民営化は絶対阻止する。動労千葉の団結はすばらしい」と書いた国労組合員は、最近、停職処分をうけ、その後、人活センターに送られた。ポスターで初めて「鉄路に生きる」の上映会を知った彼は、友人を誘い、車を五〇Km飛ばして参加してきたのだ。遠く、いわき、郡山など、県内各地からたくさんの人々が参加した。参加者の多くは、この種の集会は初めてという人達だった。

こうした成功をかちとったものこそ一ヶ月以上前から取り組まれたたたかいだった。うだるような猛暑の中で、上映実行委の人々は汗だくとなって二〇〇枚のポスターを張り、無数の宣伝ビラ、そして足を棒にしての労組回りをやり抜いた。とりわけ八月十八日から五日間、館山支部・赤羽根氏との労組オルグは決定的だった。チケットと『俺たちは鉄路に生きる』(動労千葉委員長中野洋著)は次々に入っていった。

新たな闘いに立ちあがる動労千葉の偉大な決意に比べ、八・三一の成功を突破口として、我々は福島の中から国鉄決戦の爆発を切り拓くためにさらに奮闘する。たたかいはこれからだ。共に最後まで闘おう！(福島上映委員会・寄稿)

国鉄を殺すな

—— 刊行にあたって ——

桐山 襲

昨年から今年にかけて、すでに六十名を超える国鉄労働者が自ら命をたちました。いくら国鉄で働く人が多いといっても、一年間でこれほど多くの自殺者をだすのははつきり言うて異常です。

しかし、にもかかわらず、このことはほとんどのマスコミからは無視されています。かつてマスコミは、国鉄労働者に対し、「ヤミ給与をもらった」「ボカをした」「たるんでる」と、非難ごうごうのキャンペーンをはるほど国鉄が好きだったのに、どうしたことでしょう。

国鉄当局では、頻発する自殺者について、ほとんどの場合「心あたりがない」と言っています。本当でしょうか。私たちは疑問を感じました。いま、国鉄では、とんでもないことが起きているのではないか。そんな不安を感じたのです。かつて、ヒットラーのナチスが共産主義者を弾圧したとき、一人の神父はおどろきました。怒りながらも、社会主義者だからとだましました。やがて教会の人たちへの弾圧が始まったとき、この神父は決起しようと思いましたが、しかし、そのときはもう、おそかったのです。

これと同じことが、国鉄の労働者いじめではないでしょうか。自分は国鉄ではないからと言ってはいられないと思います。

そこで私たちは、いま国鉄の職場で何がおこなわれているのか、分割・民営化で何が起きようとしているのか、現場の労働者の方に書いてもらおうと考えました。日ごろ文章など、ほとんど書いたことのない人たちはばかりですか、「へたな文章で通じることになる人が多くいました。しかし、問題は文章の良し悪しではありません。国鉄で、とんで

新刊案内 No.4

1986年秋、すべての眼がここにそそがれる

国鉄を殺すな

●国鉄労働者は発言する!!

みんな家族をかかえ、仕事をかかえている。だからこそ闘わねばならないのです。

—— 機関士45歳

電車運転士として仕事に愛着を持っています。1日も早くブレーキハンドルを持って電車の運転をしたい。

—— 運転士38歳

人間の生き方というのはそう簡単に180度変えられるものかと思う。

—— 保線区34歳

桐山 襲・編

これは統一戦線ではない。統一戦線の萌芽ですらない。しかし、ここに集められた手記を読む者は、ひとつの深く静かな怒りが、幾つもの発言を貫いて流れていることを感じないわけにはゆかないであろう。

—— 桐山 襲



もないこと」がおこなわれているとしたら、その現場にいる者こそその事実を伝えるべきだからです。

私たちは原稿を三組合の方々にお願いしました。国鉄には現在、十以上の組合があるようですが、分割・民営化に反対しているのは、国鉄労働組合(国労)、国鉄千葉動力車労働組合(動労千葉)、全国鉄動力車労働組合(全動労)の三組合だからです。

また、書いていただいた方を処分から守るため、名前のほとんどは仮名にしています。そのこと自体が、自由にもも言えなくなった国鉄を物語っているともいえます。

なお、この本を編集するにあたって、国労東京地本、動労千葉、全動労の各組合本部の方々、そしてまた、国鉄労働者のHさんに大変お世話になりました。自腹を切ったHさんの手助けには、私たちが国鉄労働者のおかれている環境のひどさ、いらだたしさを感ぜないわけにはいきませんでした。他に、静岡のKさん、埼玉のYさん、岩手のKさんなど数多くの人たちがこの本に協力してくださりました。この場を借りてお礼申し上げます。

この本によって、国鉄でいままなにおこなわれているのかを、多くの人々に知ってもらいたいと思います。そして、ここに集められた声が、全国の国鉄労働者の皆さんに広がり、励ましと勇気を与えることができるならば、幸いです。

△ 評発売中、動労千葉教宣部推せん △

冬芽社

〒102 東京都千代田区九段北4-3-20-303 電話03-262-6110(代)